

一瞬の強烈な梅雨も明け、眩しすぎる日差しと共にいよいよ夏本番がやってきたように思います。身の危険を感じるほどの暑さに冷房の欠かせない日々が続いているのではないのでしょうか。

さて、今回のzuiun便りは8月に内覧会を行う「いまどき町家」について書いていこうと思います。

まず、このお家を内覧いただく前に、改めて金沢の良さについて触れてみます。幸運にも四〇〇年以上、戦禍を免れ、自然災害でも大きな被害に遭わず歴史的な建造物を多く残している金沢では、古い町並みだけでなく、新しいデザインやアートにも感受性豊かに取り入れる事の出来る町です。その切り口のひとつとなったのが、「21世紀美術館」です。当時、古い町並みの景観を壊してしまうのではないかと多くの反対意見があったそうですが、結果ブリッツカ―賞を受賞するほどの反響があり、金沢が人気の観光地となったきっかけでもあります。

歴史を遡ると前田家の時代、加賀百万石を有する大名でありながら、幕府から目をつけられないよう武力を所有するのではなく工芸品をつくるようになったことで工芸文化が栄えたと言われています。現在でも、税金の一割が美術や工芸に使われているなんて話も聞いたことがあり、県民性として、デザインやアートとの距離感が近いのだと思います。弊社はそんな素敵なお客様に気付いていただけからこそ、この街やってこれたのではないかと思う次第です。

そして、もう一つ「町家」についてです。金沢では多くの素敵なお客様を見たり体感することが出来ます。条例によると、「町家」

「歴史、伝統及び文化を伝える建築物で昭和二十五年に存在していた建物」として定義されています。東茶屋街や西茶屋街で多く見られ、建物間口（正面の長さ）が狭く奥に長い建物（ウナギの寝床）がそれに該当します。今では古い町家をリノベーションしてカフェやゲストハウス、ギャラリーなどとして有効活用する動きがあり、訪れたことのある方も多いのではないのでしょうか。

いまどき町家。

zuiun便り vol.46

今回、ご紹介させていただく『いまどき町家』は古い建物でも、リノベーションでもない新築となります。伝統的な「町家」という訳ではありません。「町家」と聞くと「和風」を想像される方が多いと思います。確かにインターネットで「町家」を検索してみると、「格子・フスマ・畳」などが目に映ります。もちろん伝統的な和風の設えなので、町家との相性はとても良い印象があります。ですが、今回の『いまどき町家』は、金沢らしく、モダンなデザインを取り入れていこうという方向性で設計を進め、伝統的な格子・フスマ・畳などを使わない「いまどき」なデザインを目指しました。

そして、私自身も勉強がてら金沢や京都の町家に足を運び体験していく上で「町家」の良さは「素材」だと気付きました。漆喰や杉板の壁、トオリニワの土間床、吹抜けから見える梁、どこを見ても自然素材で丁寧に作られており空間の温かさを感じます。そこで感じた良さを今回の内覧会でも感じて頂けるよう「素材」に拘り、「焼杉板」「塗壁」「土間」「和紙」「真鍮」など古くから建築材料として用いられてきた素材を使用し、空間構成を考えました。ご覧になる際は是非、素材の良さを感じて頂けると幸いです。

また、流行りのスマートハウス「IOT」にも初挑戦した住宅でもあります。ドアベルを鳴らせばスマートフォンで通話ができ、外出先から鍵を開閉したり、座ったままでエアコンや照明を適切することもできる住宅です。ご主人が帰る時間をAI知能が位置情報を介して察知し、自動でエアコンや照明を付けてくれます。なんて「いまどき」なんでしょう。スマートハウス・IOTにご興味のある方は必見です。

最後に、このような内覧会の場を提供していただきましたM様には、この場をお借りして感謝申し上げます。金沢のまちなかにウナギの寝床という条件で新築させていただける機会が最初で最後になるかもしれません。貴重な機会を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。どうか、より一層素敵なお暮らしを送っていただけることを願う次第です。